

新理事長・新病院長あいさつ



理事長・病院長
内科 赤津 晋太郎

令和6年5月29日をもって緑川靖彦先生の後任として院長に就任しました赤津です。よろしくお願いいたします。当院の基本理念である「すべてのひとを、笑顔にするために」を実現すべく、安全で安心できる質の高い医療と快適な入院生活を提供できるように、職員一丸となってチーム医療に取り組みたいと考えています。そして、これまで受け継いだ理念を未来へつなぎ、地域の医療機関と連携・協力し、地域住民の健康に貢献し続ける病院を目指してまいります。

呉羽総合病院は1944（昭和19）年に呉羽化学工業(株)【現・(株)クレハ】の事業所診療所としてスタートし、1972（昭和47）年に「社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院」として独立開設されました。当院は17診療科、病床数199床（一般163床、医療療養型36床）と介護医療院39床で、いわき市南部の中核病院として機能しています。急性期医療から医療療養病床、介護医療院、訪問看護ステーション、介護老人保健施設（ガーデンア）などの介護・在宅まで時代の変化に応じた医療提供に努めており、一昨年50周年を迎えました。

超高齢社会を迎え外傷救急の需要が高まってきております。特に整形外科体制を発展させ、認知症の程度に関わらず可能な限り救急患者を受け入れられるよう、より良い療養環境を整備し、安心して暮らし続けられる地域づくりを目指してまいります。同時に職員の確保という問題もあります。緊急の課題として引き続き常勤医師の確保に努めていきたいと思っております。

病院を取り巻く環境としては、2024年度の診療報酬改定でも期待したような改定はありませんでした。さまざまな加算は用意されましたが、複雑な基準設定、人員を配置しなければなかなか診療報酬基準を達成できない厳しい施設基準など、診療報酬で収入を増やすことができないと認識しています。また、5月22

日の厚生労働省「新たな地域医療構想等に関する検討会」では、2040年頃を見据えた新たな地域構想について議論が進められております。その中では後期高齢者の急速な変化が発表されております。疾病構造の変化が進み、高血圧症・糖尿病・脂質異常症の患者は増えるが、心不全と脳卒中が減少する。そして高齢者が元気で健康になってきており寝たきりの高齢者が減っていく。癌ではなく元気であった人が、突然亡くなるが増える。団塊の世代は社会的な慣習にとられず、個人の考えを貫き、その子供も親の望みを是認するように行動するとのこと。



内科診療の様子





病棟カンファレンスの様子

私は地元、勿来町窪田で高校まで育ちました。私が大学医局に入局した当時、大学病院では主任教授が代謝内分泌専門で、その中の臓器別、消化器肝臓班に所属し、受け持つ患者は血液・神経・呼吸器・循環器・感染症・膠原病・腎臓など様々であり、患者ごとに異なる専門の指導医とともに診療をしていました。そのため毎週、他の診療科で入院中の患者に対し糖尿病の回診も行っておりました。

また、熱帯医学学会にも所属し Dengue 熱など感染症治療を含め、大学救命救急センターで1年超勤務しました。国立横浜医療センターでは東京女子医科大学消化器科の先生方、横浜栄共済病院では金沢大学消化器科の先生方に指導を受けました。

その後、実家が薬局という縁で平成12年4月、呉羽総合病院新棟の完成と同時に大学医局を退職し、呉羽会に着任しました。それから早24年、大学で専門以外の様々な疾患を経験したことがこ

の地域での患者の診療に役立っております。

当院では昨年より医療安全管理の視点から検査結果の申告漏れ対策を進めております。ひとつは、院内における肝炎ウイルス陽性患者を抽出する体制づくりで、HBs 抗原・HCV 抗体陽性の患者を対象として追跡調査しています。臨床検査科で陽性患者を認めた場合は主治医へ連絡し、医師が検査結果説明書を用いて説明し、日時や結果を記入し患者に署名してもらいます。主治医はウイルス量を測定し、陽性となった場合は消化器内科へ紹介することとしています。また、臨床検査科は週に1度診察・治療を開始したかをチェックし、開始していなければ再度主治医に連絡するようにしています。

近年では肝疾患の大きな原因であるC型肝炎ウイルスに対する画期的新薬が使用可能となっています。副作用も少なく、8～12週間の内服治療によりほぼ

100%のウイルス陰性持続状態が期待できます。B型肝炎に対しても抗ウイルス剤の内服継続により肝硬変症への進行や・肝がん予防が期待できます。

また、画像診断結果の確認漏れ対策には、医事課員が読影結果を毎週チェックし患者のリストを主治医に渡すようにしています。非常勤医師の場合もまとめて毎週チェックしています。病理結果についても電子カルテ上で主治医に連絡し、結果用紙を後日、直接手渡して確認しています。採血検査などでのパニック値については、電子カルテ上で主治医に即時に通報するようにしております。このように検査結果の申告漏れの対策に努めています。

いままでの成果を引き継ぎながら将来に向けて持続的に発展し、より多くの人たちの人生を豊かにできるように邁進していきたいと思っております。ご指導ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



内視鏡の様子

地域連携支援室

- TEL. 0246 - 63 - 2181 【代表】内線 2161
- TEL. 0246 - 62 - 3178 【直通】
- FAX. 0246 - 62 - 2035
- E-mail renkei@kureha-hosp.com
- <https://www.kureha-hosp.jp/>

- 発行日 令和6年7月
- 発行 社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院
〒974-8232 いわき市錦町落合1番地-1
TEL.0246-63-2181
FAX.0246-63-0552
URL <https://www.kureha-hosp.jp/>
- 発行人 田中 稔
- 編集 地域連携支援室